

[1020/4B-010-001]

Ver.15

4.内分泌学的検査 >> 4B.甲状腺ホルモンおよび結合蛋白>>4B010 T3(トリヨードサイロニン) [血清]

T3(トリヨードサイロニン)

[血清]

triiodothyronine

連絡先 3764

患者同意について

検査結果に影響を与える臨床情報

オーダーボタン名(検体)

1020

001

T3

検査予約

至急オーダー

不可

検査オーダーに関する注意事項

患者の検査前準備

検体採取のタイミング

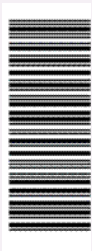
ラベル見本(検体)(単項目オーダー時)

キョウダ イテスト

注 80 外



セカ2.



血液

中検外1

*_*_*_*_*_-55002

**_*_*_*_*_*_*_*_*_*

C6

6ml

ラベル見本(細菌)(単項目オーダー時)

採取容器・検査材料

[1020/4B-010-001]

Ver.15

4.内分泌学的検査 >> 4B.甲状腺ホルモンおよび結合蛋白>>4B010 T3(トリヨードサイロニン) [血清]

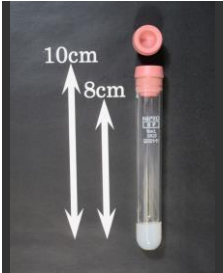
T3(トリヨードサイロニン)

[血清]

triiodothyronine

連絡先 3764

01	C6	凝固促進剤 + 血清分離剤(ピンク)	
採取材料	血液	採取量	6 mL
遠心分離		遠心	
測定材料	血清	測定必要量	0.3 mL



採取容器について

検体採取について

採取後検体の取扱い

検体搬送について

採取検体の保存条件

	保存検体種	優先 保存条件	保存条件1		保存条件2		保存条件3	
			温度	安定性	温度	安定性	温度	安定性
01	血清	保存条件1	冷蔵	12週				

受入不可基準

溶血	検体凝固	強乳び	採取量過不足	採取容器違い
尿材料違い	冷蔵保存なし	遮光保存なし	開栓	黄疸

検査に要する時間(生理検査)

再検査・追加検査の対応可能日数

検体到着日から60日間 (検体量ある場合のみ)

(分析物の安定性については「採取検体の保存条件」を参照)

検体採取に関する注意事項・検査の実施に関する注意事項

検査機器

&nbsp;

[1020/4B-010-001]

Ver.15

4.内分泌学的検査 >> 4B.甲状腺ホルモンおよび結合蛋白>>4B010 T3(トリヨードサイロニン) [血清]

T3(トリヨードサイロニン)

[血清]

triiodothyronine

連絡先 3764

検査所要日数	2～3日
検査部門・委託先	外部委託 (LSIメディエンス)
検査部門(平日時間内)	
検査部門(時間外・休日)	
検査結果報告について	
基準値設定材料・検査方法	
基準値設定材料	血液
検査方法	電気化学発光免疫測定法 (ECLIA)

生物学的基準範囲

		男性	女性	単位
00	T ₃ (トリヨードサイロニン)	0.80 - 1.60	0.80 - 1.60	ng/mL

基準値情報

緊急異常値

電話連絡対応

臨床的意義

総トリヨードサイロニン (T₃) は総サイロキシン (T₄) と共に甲状腺より分泌されるホルモンであり、ともに基礎代謝を高める作用を有する。分子中にヨードを3分子もつためT₃と呼ばれる。T₄が100%甲状腺で作られるのに対して、T₃は80%が末梢組織で脱ヨード化によるT₄からT₃への変換で合成される。分子量が小さいために細胞透過性が強く、T₄の4～5倍の生物活性があり、また即効的である。血中においては99.7%がTBGなどとの蛋白結合型として存在し、末梢で生理作用を発揮するのは遊離型T₃ (FT₃) である。本検査は、甲状腺機能異常を疑うとき、甲状腺機能亢進症の治療経過を判定するとき、また甲状腺機能亢進症の再発を疑うときに行われる。T₄、T₃は、甲状腺ホルモン結合蛋白 (TBG, TBPAなど) の増減によって影響を受け、真の甲状腺機能を反映しない場合があるため、現在ではほとんどFT₄、FT₃が用いられている。

異常値を示す病態・疾患

高値を示す病態
甲状腺機能亢進症 (Basedow病など)、破壊性甲状腺炎 (亜急性甲状腺炎など)、

[1020/4B-010-001]

Ver.15

4.内分泌学的検査 >> 4B.甲状腺ホルモンおよび結合蛋白>>4B010 T3(トリヨードサイロニン) [血清]

T3(トリヨードサイロニン)**[血清]**

triiodothyronine

連絡先 3764

TBG増加症, 甲状腺ホルモン不応症 (Refetoff症候群) など
低値を示す病態
甲状腺機能低下症 (橋本病など), TBG減少 (欠損) 症など

参考文献

LSIメディエンス 検査要項

最新 臨床検査項目辞典 第1版, 2008

JLAC10

分析物	4B010	T3(トリヨードサイロニン)
識別	0000	
材料	023	血清
測定法	053	化学・生物発光イムノアッセイ (ECLIA)

変更履歴

Ver	文書更新日	変更適用日	内容
1	2008/04/01	2008/04/01～	制定
2	2016/04/25	2016/04/01～	平成28年度診療報酬改定
3	2017/03/21	2017/02/23～	検体ラベル表記変更[R]⇒[]
4	2018/04/06	2018/04/01～	平成30年度診療報酬改定
5	2020/04/02	2020/04/01～	令和2年度診療報酬改定
6	2020/07/03	2020/07/03～	ビオチン大量服用患者の留意事項を追記
7	2020/10/22	2020/10/22～	ビオチン干渉項目に関する案内文を改訂
8	2021/03/12	2021/03/10～	外部委託化のため全面改訂
9	2021/08/02	2021/05/27～	採血容器変更
10	2021/08/27	2021/08/02～	ビオチン干渉を改良した試薬に変更
11	2022/03/09	2021/12/09～	採取名称部分に検体搬送先を印字

[1020/4B-010-001]

Ver.15

4.内分泌学的検査 >> 4B.甲状腺ホルモンおよび結合蛋白>>4B010 T3(トリヨードサイロニン) [血清]

T3(トリヨードサイロニン)**[血清]**

triiodothyronine

連絡先 3764

12	2022/08/01	2022/04/01～	令和4年度診療報酬改定
13	2022/12/01	2022/12/01～	受入不可基準などについて全面改訂
14	2023/12/21	2023/12/21～	必要検体量を追記
15	2024/06/04	2024/06/01～	令和6年度診療報酬改定